

合志市老人クラブの 活性化に係る提言

老人クラブの活性化に係る
提言書検討委員会

目次

内 容	項
はじめに	1P
1-1 老人クラブとは①	2P
1-2 老人クラブとは②	3P
2-1 老人クラブの現状【基礎データ】	4P
2-2 老人クラブの現状【合志市の老人クラブ会員数の増減】	5P
2-3 老人クラブの現状【合志市の老人クラブ加入者の割合】	6P
2-4 老人クラブの現状【単位老人クラブ会員数の推移】	7P
3-1 提言書検討委員会を設立	8P
3-2 提言書検討委員会を実施【検討委員会の様子①】	9P
3-3 提言書検討委員会を実施【検討委員会の様子②】	13P
3-4 提言書検討委員会を実施【検討委員会の様子③】	15P
4-1 老人クラブ活性化の基本方針	18P
4-2 活性化に繋がる連携図①	25P
4-3 活性化に繋がる連携図②	26P
おわりに	27P
提言書検討委員会名簿	28P

はじめに

私たちの住む合志市は、熊本県内では高齢化率の低い地域であり、また南部における開発等により人口の増加が続いている。一方で南北の地域特性が大きく異なり、また昭和50年代に開発された団地の急速な高齢化などが生じている。

こうした状況下で、合志市の掲げる「健康都市こうし」の理念を体現する大きな役割をもつ老人クラブは、会員数の減少や役員等における後継者のなり手がいない、資金の確保等の課題が山積し衰退の危機にある。地域社会の人間関係の希薄化が進行している今日、仲間作りや様々な地域活動に取り組んでいる老人クラブの衰退は、地域社会の活力の減退をより進めてしまうことにつながる。このような現況を回避するため、老人クラブの活性化を図ることが、活力ある地域社会を取り戻すための第一歩であると言える。

本書は、この老人クラブの活性化を促すため、市老人クラブ連合会、各単位老人クラブ及びその会員、そして合志市がそれぞれの立場から取り組むべきことについて、「老人クラブ活性化に係る提言書検討委員会」で検討し、「合志市における老人クラブの活性化に係る提言書」としてまとめたものである。

市老人クラブ連合会、単位老人クラブ、及び合志市で老人クラブの活性化に向けて、具体的、かつ、積極的な取り組みを促していきたい。

1-1 老人クラブとは①

・「老人クラブ」について

地域を基盤とする高齢者の自主組織である。
「生活を豊かにする楽しい活動」と「地域を豊かにする社会活動」を主な目的として活動している。
概ね60歳以上の方が会員となる。
歩いて集まることができる小地域で組織されており、クラブの規模は概ね30～100名が標準である。
会員の自主的かつ民主的な運営を行い、財源は会員の会費で行うことが基本となる。
昭和38年に施行された「老人福祉法」において、法的な位置づけがなされクラブに対する公的な助成も行っている。

・老人クラブの歴史及び活動方針について

老人クラブの起源は、平安時代に始まり、明治・大正にかけ幾地区かの老人会が設立され、現在の基礎となった。昭和に入り戦後、老後に不安を感じ全国各地で次々に結成されている。

現在のメインテーマは、「**のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを**」となっており、「健康寿命」をのぼし、自立した生活、生きがいある生活の実現を目指すために、継続的な健康活動に取り組むこと。また、他世代や関係団体と連携し、安全・安心の住みよい「地域づくり」を目指し、高齢者の知識、経験、活力を生かす場作り、機会作りをひろげることを目指して活動している。

引用 公益財団法人全国老人クラブ連合会 WEBサイト
(<http://www/zenrouren.com/>)

1-2 老人クラブとは②

合志市の老人クラブの活動の全体像は、以下のとおりである。大別すると「生活を豊かにする楽しい活動」と「地域を豊かにする社会活動」の2つになるが、それぞれが関わりを持ちながら総合的に取り組まれている。

生活を豊かにする楽しい活動

健康づくり
介護予防



健康学習、いきいきクラブ体操、ウォーキング、各種シニア・スポーツなど

趣味、文化
レクリエーション



交通安全、子どもの見守りパトロール、趣味・文化・芸能などのサークル活動、旅行など

地域を豊かにする社会活動

友愛
ボランティア



友愛訪問、集いの場づくり(サロン)、暮らしの支え合い、福祉施設等の訪問、地域のボランティア活動、社会奉仕の日の活動など

安心、安全
まちづくり



生活課題の調査・点検(モニター)活動、関係機関への提案など

世代交流
伝承



地域の文化・伝承芸能・民芸・手工芸・郷土史・生活記録等の伝承活動。子どもや青壮年などとの交流活動など

環境、生産
リサイクル



農作物や花の栽培、植林、手工芸品の製作。公園や公共施設の環境整備や運営管理、リサイクルなど

引用 公益財団法人全国老人クラブ連合会 WEBサイト
(<http://www.zenrouren.com/act/index.html>)

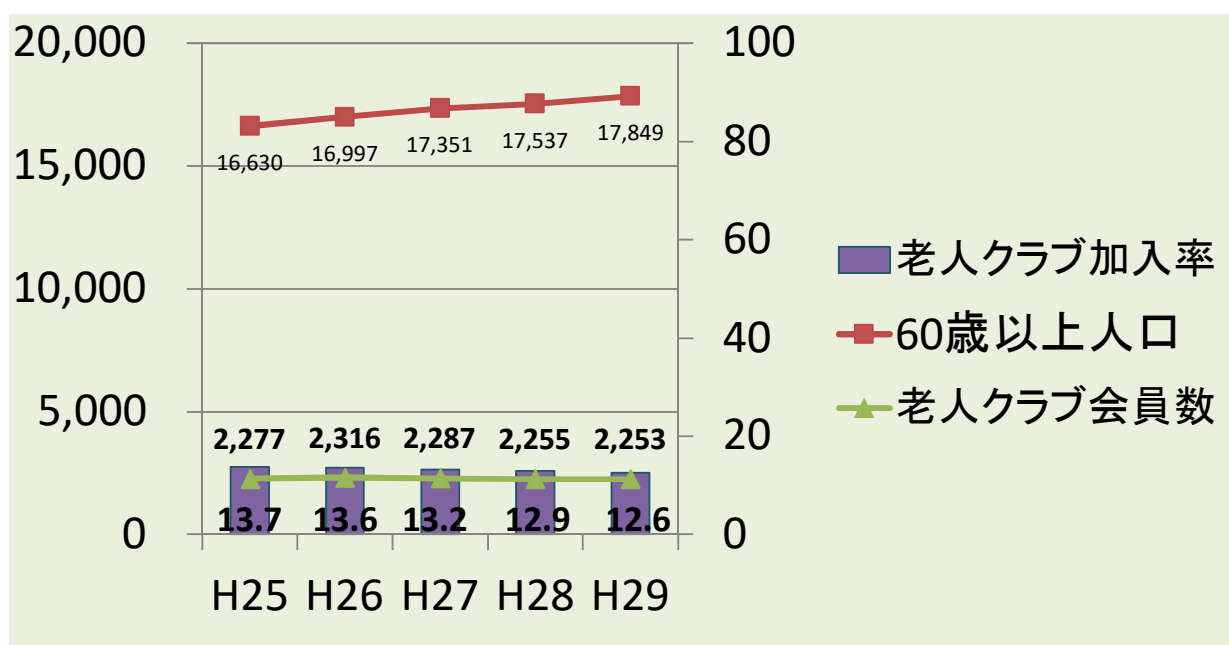
2-1 老人クラブの現状【基礎データ】

合志市の老人クラブの状況は、以下のとおりである。

(1) 会員数、単位クラブ数、加入率

	市人口	60歳以上人口	老人クラブ数 (老連加入)	老人クラブ 会員数	老人クラブ 加入率
H25	58,237	16,630	38	2,277	13.7
H26	59,067	16,997	39	2,316	13.6
H27	60,008	17,351	39	2,287	13.2
H28	61,022	17,537	39	2,255	12.9
H29	61,652	17,849	39	2,253	12.6

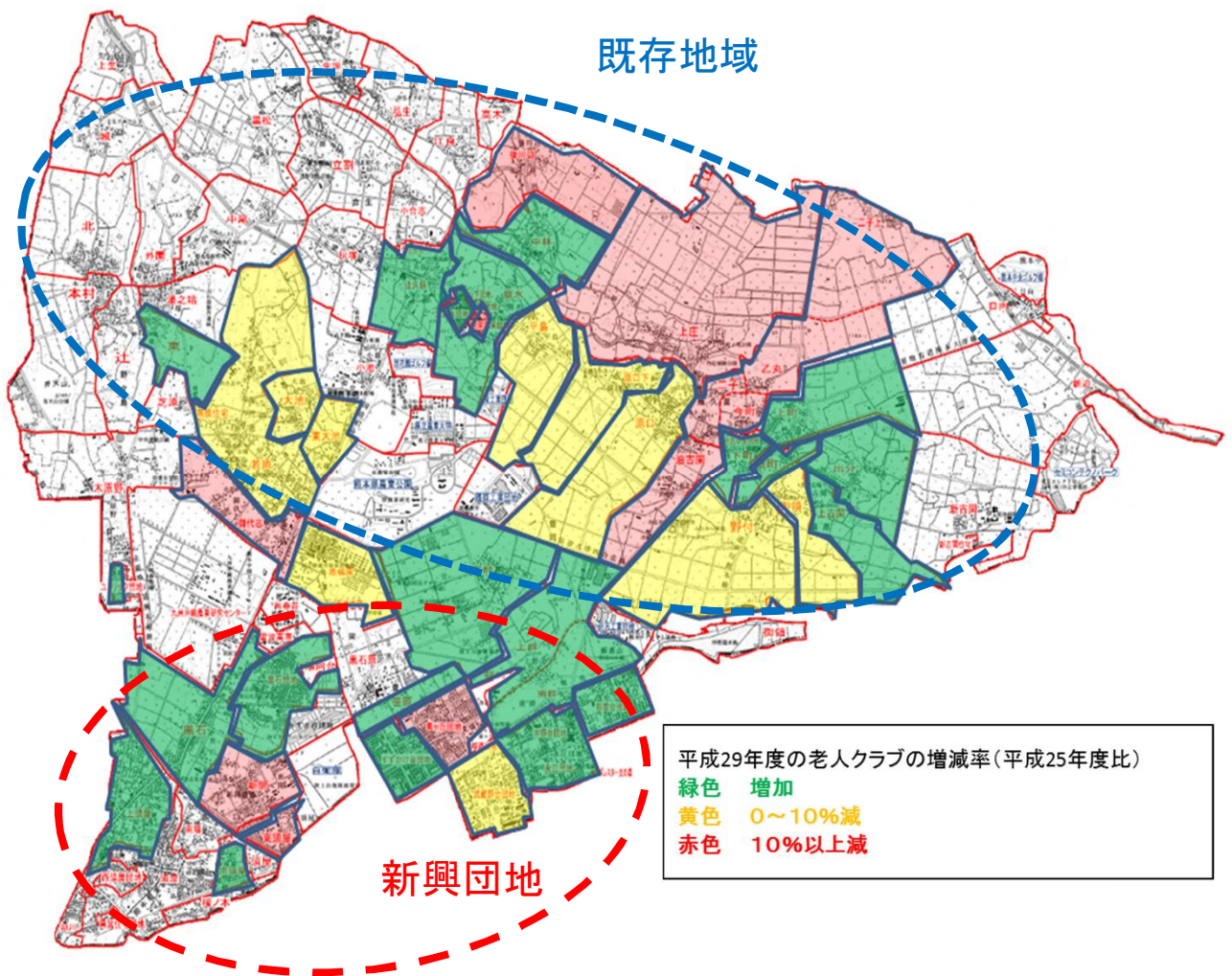
(2) 会員数と加入率の推移



2-2 老人クラブの現状

【合志市の老人クラブ会員数の増減】

平成25年度と平成29年度の比較による老人クラブ会員数の増減であるが、新興の住宅地では増加傾向にあり、既存地区では減少しているところが多い傾向が見られる。



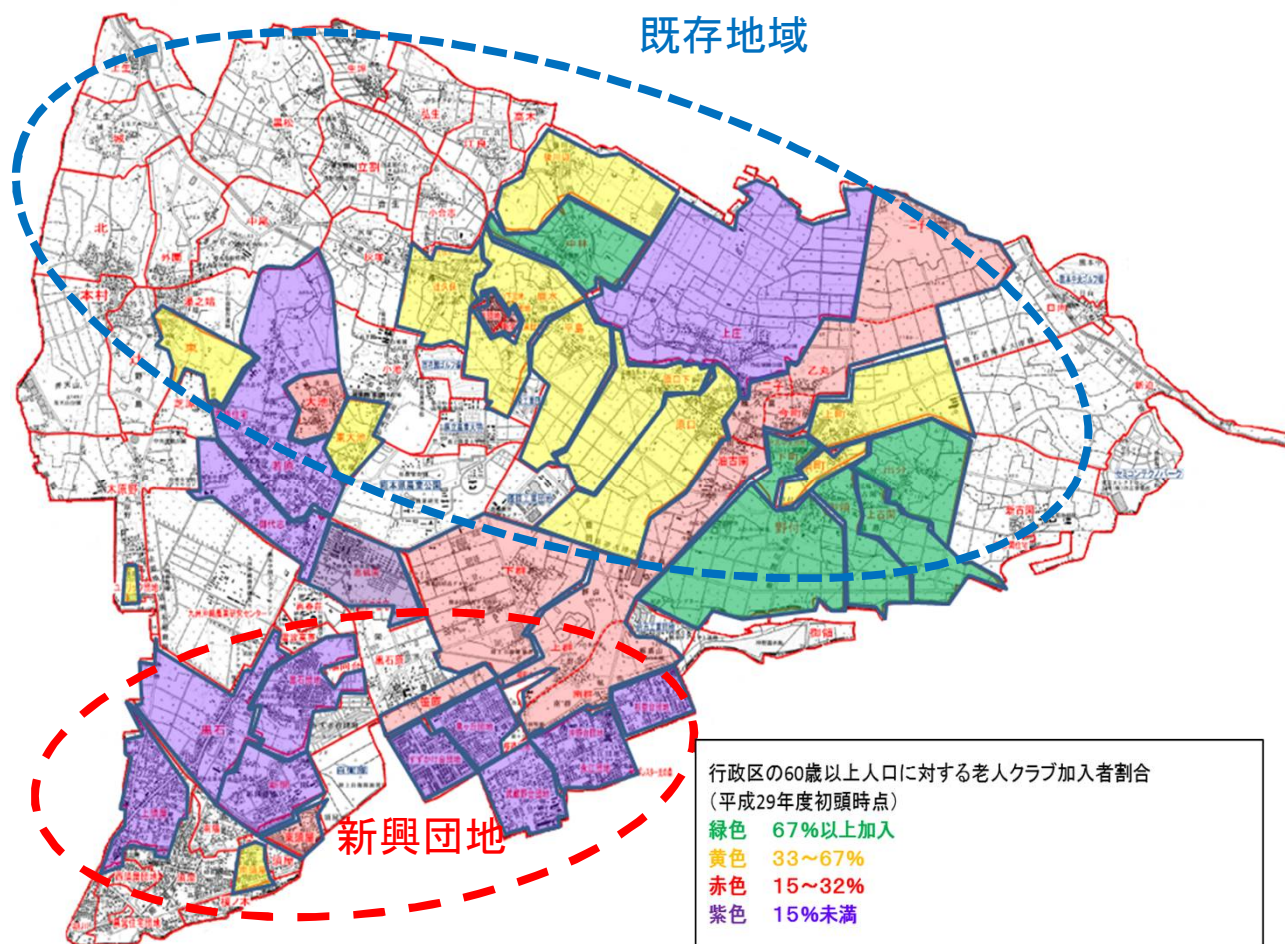
※白抜き部分は市老人クラブ連合会に所属するクラブがない地区。老人クラブ自体がない地区もあるが、独自にクラブ運営をしている地区もある。

2-3 老人クラブの現状

【合志市の老人クラブ加入者の割合】

平成29年度の60歳以上の人口に対する老人クラブ加入者割合である。

既存地区では、比較的高い加入率となっている一方で、新興の住宅地においては加入率が15%未満の地区が多いことが顕著となっている。



2-4 老人クラブの現状

【単位老人クラブ会員数(連合会所属)の推移】

平成30年度現在、市老人クラブ連合会に加入している老人クラブは39クラブとなっている。

会員数推移	H25	H26	H27	H28	H29
1 出分	56	58	57	53	53
2 上古閑	57	56	55	52	53
3 御領	76	75	80	84	83
4 野付	111	111	107	103	100
5 上町	34	34	35	29	24
6 横町	40	45	45	43	45
7 下町	76	80	79	78	81
8 幾久富	58	47	34	33	32
9 上庄	41	35	36	40	40
10 原口	82	81	79	73	77
11 原口下	31	31	31	29	28
12 平島	65	60	58	61	62
13 鹿水	49	54	58	58	59
14 中林	62	61	63	64	69
15 後川辺	44	39	35	34	34
16 栄温泉団地	37	38	40	38	37
17 新栄	32	34	33	33	38
18 上群	33	33	28	26	26
19 下群	-	53	43	36	33
20 杉並台	102	104	105	98	98

会員数推移	H25	H26	H27	H28	H29
21 永江団地	91	92	95	95	94
22 武蔵野台	62	56	56	53	50
23 泉ヶ丘	56	54	52	56	59
24 すずかけ台	98	99	103	100	96
25 笹原	37	36	38	38	43
26 恵楓園D	30	30	30	30	30
27 東	41	42	41	39	34
28 辻久保	60	61	62	57	57
29 大池	51	49	49	48	47
30 東大池	41	39	41	37	40
31 御代志	53	47	45	39	41
32 若原	62	55	57	56	50
33 ユトリック団地	102	110	107	123	119
34 新開	39	40	35	34	35
35 黒石	51	49	52	52	50
36 黒石団地	71	74	77	75	83
37 上須屋	101	102	109	114	115
38 東須屋	63	65	56	51	50
39 南須屋	82	87	81	93	88
合計	2,277	2,316	2,287	2,255	2,253

3-1提言書検討委員会を設立

平成28年度より老人クラブの“活性化”を目的に「かつての活気を!!老人クラブげんき講座」を開催してきたが、更に具体的な活動に向けて、「提言書」で示し、実現性を高めるために市民からの検討委員会を組織。

(第1回) 平成30年2月5日

老人クラブ活動の現状を説明し、課題点などを協議



(第2回) 平成30年3月26日

老人クラブ活動の先進地の事例を学び、提言の方向性を協議



(第3回) 平成30年6月7日

委員会で検討した方向性をもとに、今後取り組めそうな内容を協議し決定



(第4回) 平成30年8月23日

提言書(案)を協議し、正式に決定

3-2 提言書検討委員会を実施 【検討委員会の様子①】

第1回【平成30年2月5日】

自己紹介・老人クラブの良い影響や課題点などを協議

(グループワークの様子)



2つのグループに分かれ活発な意見交換を行いました。

第1回提言書検討委員会での意見

老人クラブがあることによる良い点・良い影響

◆地域のつながり

- ・仲間作りで生きがい、楽しいことができる
- ・社会性が維持できる
- ・近隣のつながりが厚くなる
- ・人との交流が生まれる
- ・1人暮らしが多くなるなか、近所のつながりができる
- ・お互いに支えあうコミュニティーができる
- ・コミュニケーションで交流ができる

◆様々な活動への参加

- ・スポーツや旅行など様々な活動への参加

◆見守り

- ・孤独死を防ぐ
- ・個人の困り事の早期発見、早期解決
- ・独居の人を見守れる

第1回提言書検討委員会での意見

老人クラブの抱える現状の課題・問題点

◆入会者（特に若い世代）の減少

- ・会員数が増えない
- ・60～70代の入会が必要
- ・勧誘する人が年上だと、若い人が入ることに抵抗感を持つ
- ・若手の入会者が少ない

◆役員の業務負担、後継の不足

- ・役員が高齢化し、事務作業の負担増
- ・役員のなり手がいない

◆他団体との関係

- ・老人会とサロンで選ぶひとがいる
- ・自治会との関係

◆周知活動の不足

- ・様々な活動をしていることを知られていない
- ・よそがしていることが分からない

◆老人クラブのイメージ

- ・「老人」という言葉のマイナスイメージ

◆クラブ内課題

- ・やめづらい
- ・老人クラブを支えるひと、ボランティアも高齢化している
- ・同じ会員でも親子ほどの年の差があるので、別グループを形成している
- ・若い世代が80代の世代をささえている

第1回の話し合い結果

グループ1

○自分より年上の人から老人会入会の呼びかけがあると、入会したいという気持ちにはならないとのこと。自分より年下の人からの誘いのほうが入会したいという気持ちになるとのこと。

○若い人が絡む(大学生)ことで、交流が生まれ、「頑張ろう!なにかしてあげたい!」という気持ちが出てくる。活動に大学生を絡ませると老人クラブも若返り、活性化していくのではないか。

グループ2

○65歳になると、自然と老人会に入る仕組みを作る。

○自治会を中心とした地域活動(老人会、こども会、婦人会など)



第1回のまとめ

○サンコーライフサポートの配食サービスを仕事とするなど施設と老人クラブが業務提携をして稼げる老人クラブを目指しては？

○大学生を老人クラブ活動に絡ませる。その為には、市と大学側も提携を結び、参加しやすい環境をつくってみては？

3-3 提言書検討委員会を実施 【検討委員会の様子②】

第2回【平成30年3月26日】

先進地(福岡市・諫早市)の事例発表・意見交換



福岡市南区シニアクラブ連合会 様

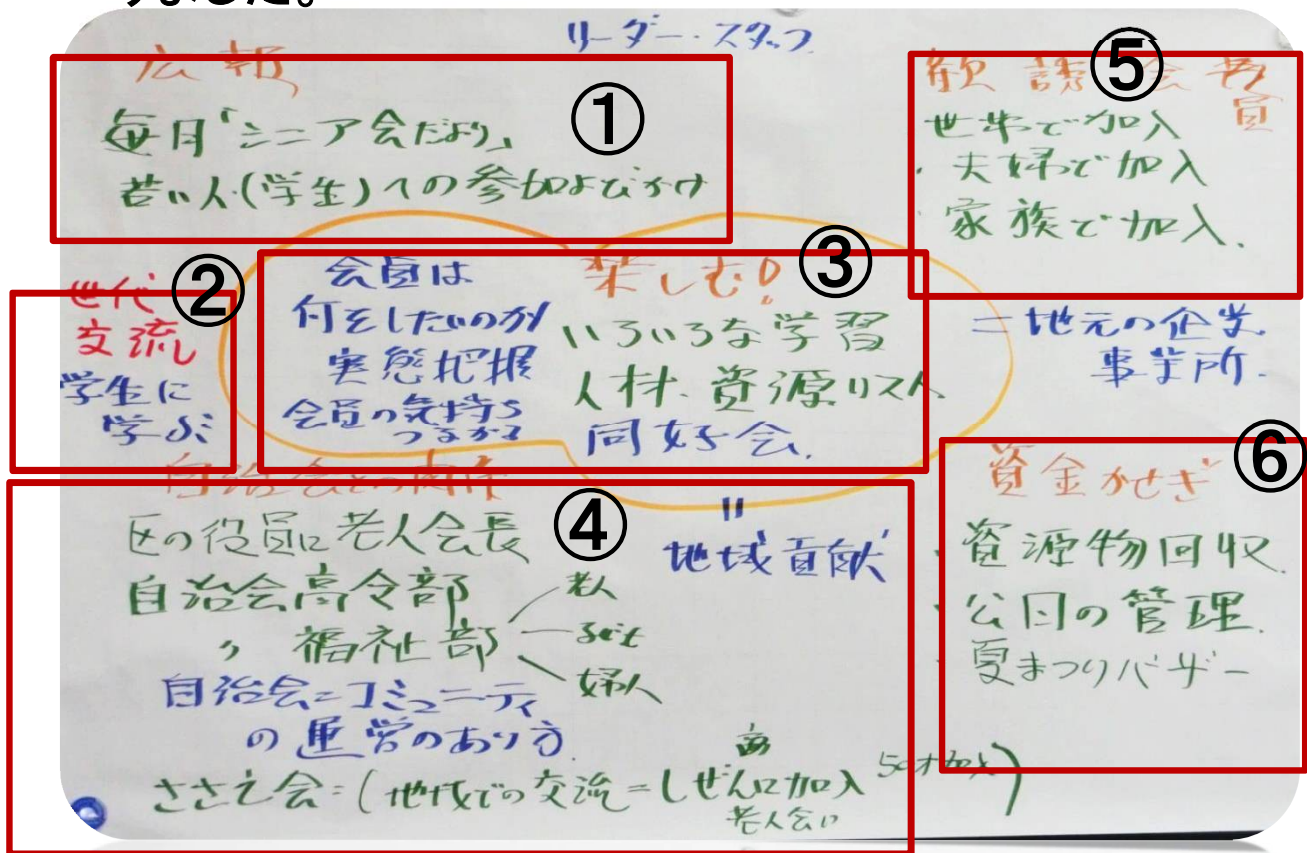


諫早市久山台シニア会 様



意見交換会の様子

◎意見交換会の結果、6つのキーワードがまとめられました。



～活性化に繋がる～
キーワード

- ① 広報活動について
- ② 世代間交流
- ③ 「楽しむ」活動
- ④ 自治会との関係
- ⑤ 会員勧誘について
- ⑥ 資金かせぎ

若い力

(大学生や高校生
中学生や小学生など)

事業所や企業

(福祉事業所や一般企業など)

各種団体

(子ども会や商工会等)

「色々な資源と連携することで
できることがあるかも…」

3-4 提言書検討委員会を実施 【検討委員会の様子③】

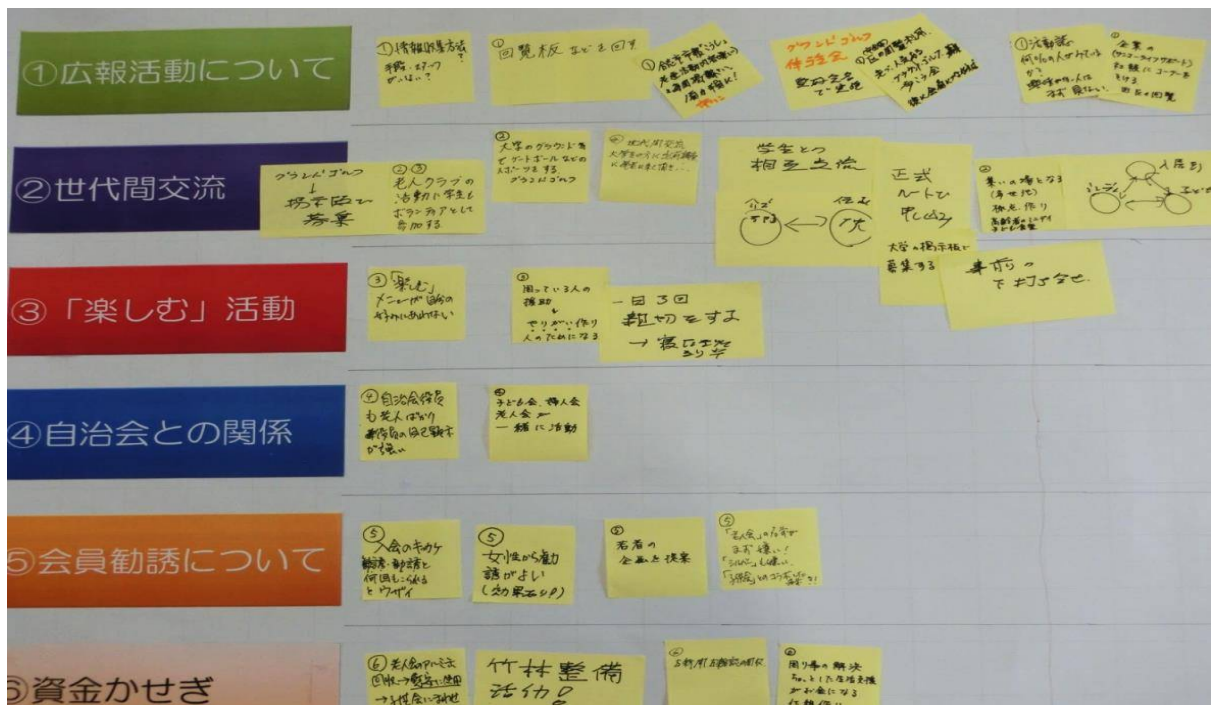
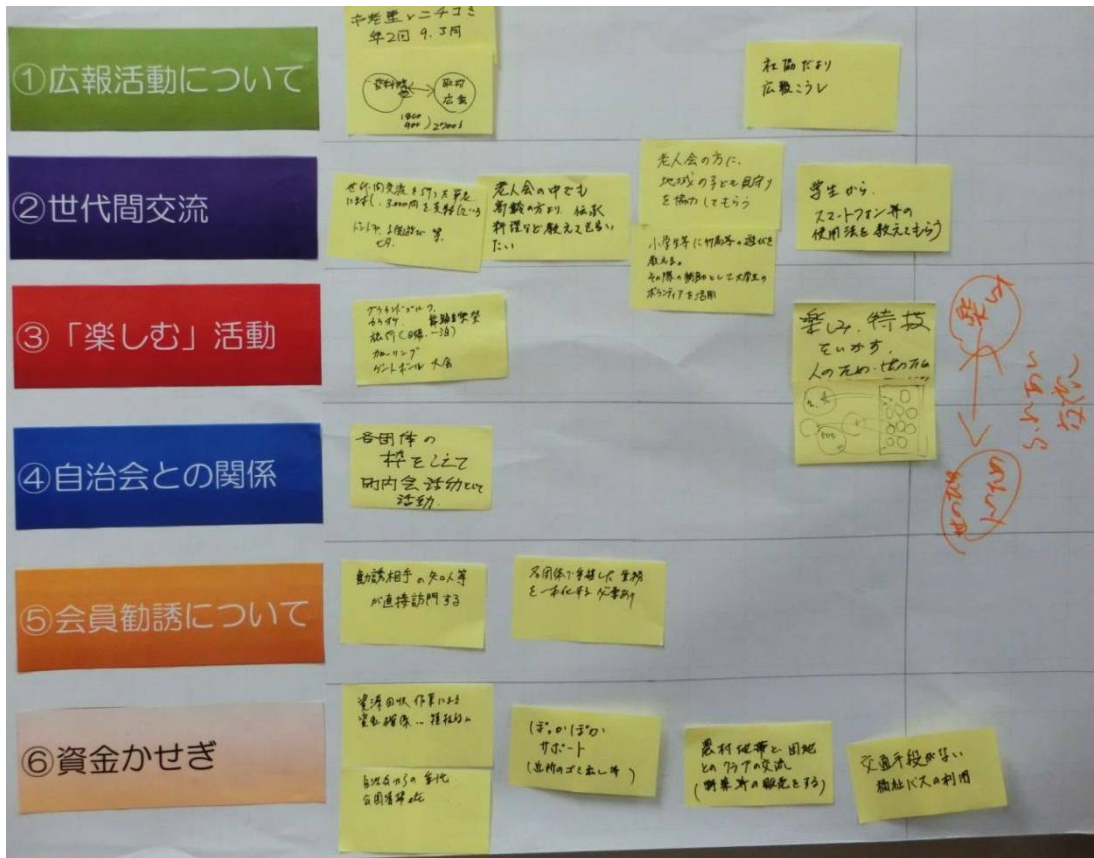
第3回【平成30年6月7日】

第2回での6つのキーワードをもとに今後取り組めそうな事をグループで協議



話し合った内容をグループで発表

グループでの話し合いでの意見



- ①**広報活動**・・・合志市や社協広報誌に活動を掲載。地域の回覧板。広報こうし社協ほっとラインに活動を掲載。
- ②**世代間交流**・・・子ども会との交流で老連からの助成があり、うまく活用する。伝承遊び(学生も絡めての)は、社協ではスマートフォン講座を熊本高専と協同で開催。定員を超える応募で人気講座となっている。スマートフォンを呼び水として学生との交流。(老人会の方々にスマートフォンの使い方を学生が教えるなど)老人クラブではグラウンドゴルフをされる方が多い。大学生と一緒に楽しむ。
- ③**楽しむ活動**・・・老人会の活動としてグラウンドゴルフ、旅行やゲートボール、カラーリングなどの活動が多い。いままでと違った活動を行うことで新たな層を取り入れることができるのではないかな。福祉バスを幅広く利用することで活動の幅が広がるのではないかな。人にありがとうと言われることの楽しさ、モチベーションのアップに繋がるのでは。
- ④**自治会との関係**・・・地域に老人会と似たような組織があるので(サロンなど)役割の明確化。子ども会、婦人会など一緒に活動。
- ⑤**会員勧誘**・・・女性からの誘いだとうまくいきやすいのではないかな。男性は女性から勧誘されると断れない。老人会という言葉に抵抗。名前を変えるが実態が変わらないため、会員増に繋がらなかった。
- ⑥**資金稼ぎ**・・・いままで培ってきた知識や技術を活かすため、老人クラブの人材バンクなどを組織。老人会の会員がいろんな場所での活躍の場をもつことで生きがいに繋がっていくのではないかな。人のためになることが自分のためになる。楽しく資金稼ぎできる仕組みがあれば...

4-1 老人クラブ活性化の基本方針

3回の話し合いから次のような基本方針がまとめられます。

【合志市老人クラブのテーマ】

楽しくないなら意味がない!!

まずは楽しみ、そして地域の老人クラブへ!!

『老人クラブは以下の6項目を基本方針の柱として掲げ
活性化に向け邁進していきます!!』

1、**広報活動の充実**

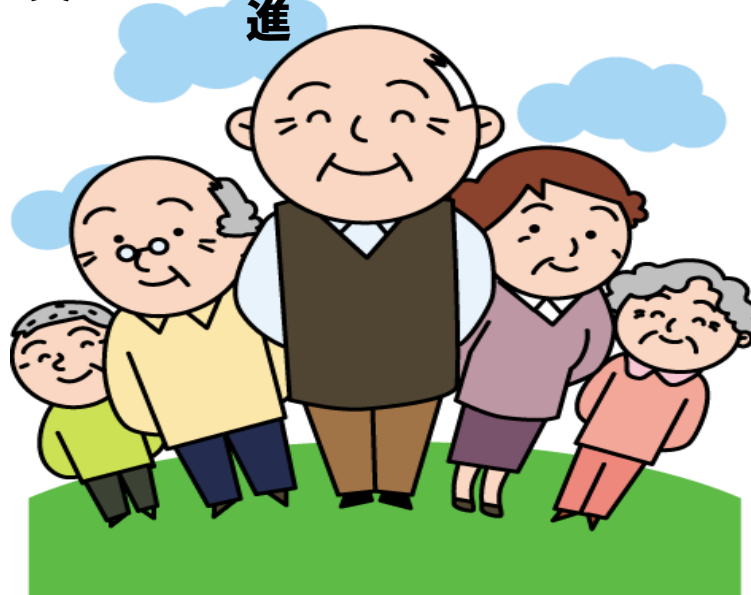
2、**世代間交流の充実**

3、**「楽しむ」活動の推進**

4、**各種団体との連携**

5、**会員勧誘の工夫**

6、**稼げる老人クラブの推奨**



1、広報活動の充実

**「イメージアップを図り
楽しそう!!入りたい!!と、思えるような広報活動」**

①楽しさを前面に出した老人クラブのイメージポスター、 チラシの作成

今までのイメージを払拭できるような、明るいイメージのポスター及びチラシを製作。「いきいきと活動している」老人クラブを目指す。

②老人クラブの広報誌を発行

老人クラブ連合会や各単位老人クラブの活動の紹介、地域の行事等を提供し、クラブ活動に興味と関心を促す。

③市の広報誌に各単位老人クラブの活動紹介

毎月、市の広報誌に一単老ずつ、活動自慢と写真を掲載。楽しい活動であること全市民にアピールすることで、老人クラブのイメージアップを図る。

④市のホームページで活動紹介

市のホームページにて、単位老人クラブの開催場所や開催時間など活動に関しての情報などを掲載。自分の住んでいる地区に老人クラブがあるかどうかまた、どのようなことを行っているのかを知ることができる。

2、世代間交流の充実

「なにもより若い力が原動力!!

若い人と一緒に楽しめあえるような活動を！」

①市と包括協定を結んでいる大学生との交流や行事等の協働を行う

市と包括協定を結んでいる大学とまずは連携し、大学生が地域の老人クラブと交流や行事等で協力できるような仕組みを大学側と市で協議し、つくる。

②子どもや若年・中堅世代との伝承交流を積極的に行う

これからを担う若い世代と自分達が持っている知識・経験を交流などを通じて伝承していくなかで老人クラブ活動に関心を持ってもらう。

③地域ボランティアとの連携

地域には色んなこと(パッチワークや健康体操、マジックなど)を特技としてもった方がおられ、市のボランティアセンターに登録されている。また、市社会福祉協議会が行っている「地域の絆づくり推進事業」(木工教室、コーヒーの入れ方講座など)で組織された方もおり、社会福祉協議会などと連携し、新しいことに取り組んでいく。

3、「楽しむ」活動の推進

「まずは、会員が楽しむための活動づくりを!!」

①活動内容の見直し

現在の活動について、行う意味、本当に必要かどうか再点検して、会員の負担になっている活動については、おもいきって無くしてみても。あくまでも会員みんなが楽しんで行うことができるか？という視点から活動の見直しを図る。

②キーワードは

「楽しく!!①趣味活動②健康づくりで自然と交流」

趣味活動や健康活動の充実。(健康マージャン、夜の女子会、いきいき百歳体操など)人が集まる場が増えることで、会話がうまれ、自然と交流ができる。この何気ない交流が人と人との繋がりを色濃くし、地域を動かす原動力となっていく。

③市のシステム

「こうしぼちぼち元気ポイント」を利用して楽しく活動

本システムは、団体として登録することで、個人にポイントが付与される。貯めたポイントは、現在はクラッシーノマルシェでのお買い物でも利用できる。今後は他の商業施設でも利用できるような働きかけを行っていき、利用の利便性を高めていく。また、ポイント取得上位者の表彰や広報掲載を行っており、活動を楽しくさせる仕組みとして単位老人クラブに利用を促していく。

4、各種団体との連携

いろんなどこと繋がり、連携を強化
「自治会、子ども会、事業所など地域丸ごと繋がろう!!」

①自治会関係者やサロン担当者などとのつながりを深めるための意見交換会の実施

単位老人クラブの活動が住民の暮らしに貢献できるように、自治会やサロン関係者との定期的な意見交換会を開催して、理念や活動内容への理解を深め、また役割のすみわけを行う。きっかけが必要であれば、市・社協が行っている「地域福祉座談会」などを活用する。

②市内事業所との連携を深めるための交流を実施

地域貢献を目指している事業所を、まずは市がピックアップする。老人クラブと連携できる事業所一覧を作成し、老人クラブへ提出。老人クラブ連合会や各単位老人クラブで連携をとってもらい、見学や施設の一室を利用して老人クラブ活動を行ったり、事業所の専門職などによる、健康体操や健康講話など行ってもらおう。

③地域の安全・安心の推進活動への協力

老人会が子ども会や自治会等と連携し、防犯など安全安心の推進活動への協力を行ない、地域の活動に寄与。老人会の活動を地域へPRする。

5、会員勧誘の工夫

「入会がしやすい雰囲気や環境づくりなど工夫を行い、若い世代の方が安心して会員になれるようにする」

①会員勧誘方法の見直し

「老人会」のイメージを変えてもらえるような雰囲気や環境づくりなど工夫を行い、特に若い世代の方が安心して入会できるようにする。加えて、老人会会員の過半数が女性であることから、今後会長や役員などでの活躍や女性の意見を活かした老人会運営が望まれる。

②若い世代とのつながりを深める

行事や交流イベントを協働で開催し、関係を深めることで顔なじみとなり地域の防災や防犯に寄与し、活躍の場を増やすことで老人クラブ活動に参加することが増え、ひいては活動的で健康な高齢者が増えることで市の負担の軽減の一助になりうる。

③広報媒体等をつかった勧誘

作成したポスターやチラシを有効活用し、地域の行事等で積極的にPRを行い、まずは活動を知ってもらうことが第1歩。

6、稼げる老人クラブの推奨

活動資金捻出をできる仕組みをつくることで
「強い老人クラブへ」

①「老人クラブお助け隊」(仮称)の立ち上げ

老人クラブ会員には、いままで永年で培った知識や技術を持っていらっしゃる方が地域に眠っている。その培った経験を地域のために発揮できるように「お助け隊」を創設し、その知識や技術を色んな場面で発揮してもらう。

②事業所などでの仕事を請け負う(一部)

人材不足で、悩んでいる施設、また人手を必要とする農家も少なくない。そのような人材を必要としている場を市がピックアップし、上記の「お助け隊」と連携し、その手伝った対価を老人クラブの資金にあてる。

③資源物回収を請け負う

老人会が市で行なっている廃棄物回収のうち「資源物」の回収を請け負い、その補助金を会の運営に役立てる。

4-2 活性化に繋がる連携図①

各自の役割等を整理すると次のとおりになります。

内容	老人クラブ 連合会(老連)	各単位 老人クラブ(単老)	市	社会福祉協議会 (社協)
1、広報活動 の充実	①イメージポスター、チラシを作成し、各単老へ周知を図る。 ②広報誌を発行し、活動の周知を図る。	①地区の掲示板などや集会などで活動の周知を図る。	①老人クラブのイメージポスターを老連と協働し作成する。 ②市の広報誌に各単老の活動紹介する。 ③市のホームページで、活動紹介する。	①社協広報誌で老人クラブの活動周知を図る。
2、世代間 交流の 充実	①大学生や子ども等と単老との間を取り次ぎ、交流を進める。	①連合会と連携し各単老が交流を図る。	①大学生や子ども等が老人クラブにいきしやすい環境を作る。	①地域のボランティアや絆づくり事業の情報を整理し、単老との間を取り次ぐ。
3、「楽しむ」 活動の 推進	①現在単老で行っている活動を把握し、分析を行ったうえで各単老へ「楽しむ」活動のための指針を示す。	①各単老で皆が楽しめる活動を模索、検討し、実施する。	①楽しんで活動されている単老をピックアップし、紹介する。 ②「こうしぼちぼち元気ポイント」を老連や単老の集まりの際に、紹介と参加の推奨をしていく。	①レクリエーション活動など皆で楽しめる活動メニューの提供、定着までの支援を行う。

4-3 活性化に繋がる連携図②

各自の役割等を整理すると次のとおりになります。

内容	老人クラブ 連合会(老連)	各単位 老人クラブ(単老)	市	社会福祉協議会 (社協)
4、各種団体の連携	①市が整理した団体等の情報をもとに、各単老へご紹介して連携を促す。	①老連からの情報を元に各種団体(自治会・子ども会・商工会など)とイベントなどを通じて連携を図る。	①地域に密着している団体等をピックアップし、情報の整理を行い、老連や単老へ提供を行う。	①地域福祉座談会の周知を老連及び単老会長に行い、座談会開催について進めていく。
5、会員勧誘の工夫	①会員が入会しやすい環境づくりのための「指針」を市と協働し作成を行い、各単老老人へ周知、徹底する。	①老連が作成した「指針」をもとに実践する。	①会員が入会しやすい環境づくりのための「指針」を老連と協働し作成を行う。	①市、老連と連携し、会員の増加を図るための活動支援を行う。
6、稼げる老人クラブの推奨	①老人クラブ「お助け隊」を市、社協と協議をして作り上げるとともに各単老と活動の連携を行う。 ②市、社協と協働し仕事の開拓、就労支援を行う。	①老連合会と連携し、必要な活動を行う。	①老人クラブ「お助け隊」を老連、社協と協議をして作り上げる。 ②老人クラブが担えそうな仕事を老連と協働し開拓、支援を行う。	①老人クラブ「お助け隊」を市、老連と協働をして作り上げる。

おわりに

この提言書にて、検討委員会としては老人クラブのこれからを築くために、老人クラブ連合会、各単位老人クラブ、合志市、社会福祉協議会が一体となって取り組む基本的な考えを示したものです。具体的な行動方針の詳細は今後の検討が必要となります。

この提言により「老人クラブ」活動が、合志市の掲げる「健康都市こうし」を支える活動の一環であることを理解するとともに、高齢者の生きがい活動へとつなぎ、合志市及び地域の老人クラブの活性化に繋がることを期待します。

提言書検討委員会 名簿

提言書検討委員会委員

委員名	所属
岩下 哲夫	市老人クラブ連合会 会長
寺本 秀信	市老人クラブ連合会 事務局長
佐伯 謙介	(有)ひとちいき計画ネットワーク
後藤 勝	榎ノ本老人クラブ(老連非所属)
鞭馬 申也	市民
西嶋 達代	民生委員・児童委員
松崎 和寛	すずかけ台区長
上野 志折	(株)サンコーライフサポート
坂口 美果	熊本県立大学 学生
松成 謙介	熊本保健科学大学 学生
江藤 真向	熊本保健科学大学 学生
福田 凧沙	熊本保健科学大学 学生
戸浪 紀子	熊本学園大学 学生
森 月子	市社会福祉協議会

事務局

事務局員名	所属
永松 康行	生活支援コーディネーター
上山 展右	高齢者支援課包括支援センター班

